

アレルギーアイ ふき取り用検査キット

くるみ

ふき取り検査用マニュアル

1. 準備するもの



- ①ふき取り器具
 - ②マイクロピペッター
1mL用、100 μ L用
 - ③ビニール手袋
- タイマー
 - チューブ立て
 - 試験管ミキサー など

※ビニール手袋は必要に応じて着用してください。
本マニュアルはビニール手袋を着用した状態で撮影しております。

こちらに示したものは一例です。代用可能なものも
ございますので、ご不明な点はお問い合わせください。

2. クイックと同時に検査する場合の注意

- 本検査キットで検査するふき取り溶液には、専用の添加液を加える必要があります。添加液を加えた溶液にクイックのテストストリップは浸けることはできません。正しく検査できない場合があります。

クイックと同時に検査する場合は、添加液を加える前にクイックのテストストリップで検査し、残った溶液に添加液を加えてから、くるみのふき取り検査をしてください。

添加液の加え方はP 6をご確認ください。

3. 準備するもの（ふき取り器具の説明）

- ふき取り器具は微生物検査用に使われる市販の緩衝液つきふき取り綿棒を推奨します。
関東化学株が販売する『フキトレール（PBS）』を推奨します。
(本マニュアルはフキトレール（PBS）を使用して作製しております)
- ご自身で準備される場合は、綿棒、リン酸緩衝生理食塩水綿棒と緩衝液を入れる容器が必要です。
- 緩衝液は、食物アレルギーやペプトンなどの入っていないものをご利用ください。その他の緩衝液の使用については、お問い合わせください。
- 緩衝液の液量は10mLを推奨します。緩衝液の量を減らしてより高感度な検査をする場合は、必ず検証した上でご利用ください。条件によっては期待した感度が得られない場合があります。

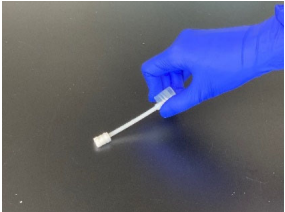
4. ふき取り箇所の選定

- ふき取る範囲の基本は10cm×10cmです。独自に設定している場合は、これに限りません。
※平面でないところは面積にこだわらず、アレルギーが残存している可能性が高いところをふき取ります。
- 日々の検査においては、同じ箇所を同じ方法でふき取ることにより検査結果を管理しやすくなります。
- 洗浄が完了した場所をふき取ります。洗剤や漂白剤などが多量に残っている箇所は検査できません。

5. ふき取り綿棒の準備とふき取り

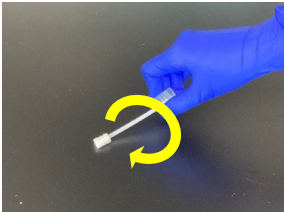
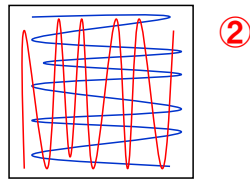


キャップをはずしてボトルの中央部で綿球部分を指で圧迫し、余分な水分を取り除きます。



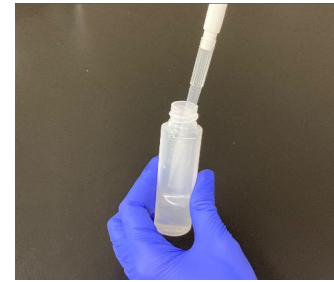
綿棒がしなる位の力でふき取ります。

例)
右図のように横方向、
縦方向にふき取って
ください。



綿球の面を変えてふき取ると、より多くのアレルゲンをふき取れます。

6. ふき取り検査用添加液を加える

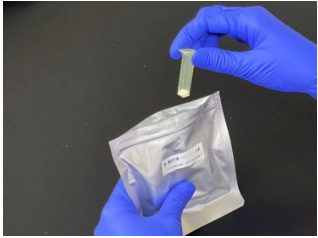


1) ボトルに残っているおよそ9mLの緩衝液に、「ふき取り検査用添加液」1mLを加えます。



2) ふき取った綿棒をボトルに戻し、キャップを締めてよく振り混ぜます。これが、検査試料になります。

7. 検出液に検査試料を加える



- 1) 検出液（凍結乾燥）を袋から取り出します。

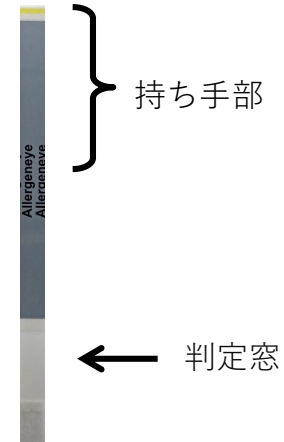


- 2) 検査試料100 μ Lを検出液に加えます。



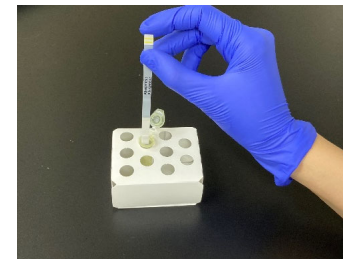
- 3) 検出液が完全に溶けるまで、**10秒以上**試験管ミキサーでかくはんします。

8. テストストリップを検査試料に差し込む



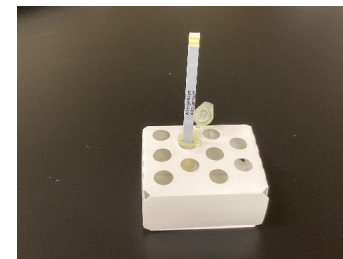
- 1) テストストリップを袋から取り出します。

持ち手部以外はさわらないでください。



- 2) 検査試料を加えた検出液のチューブにテストストリップを差し込みます。

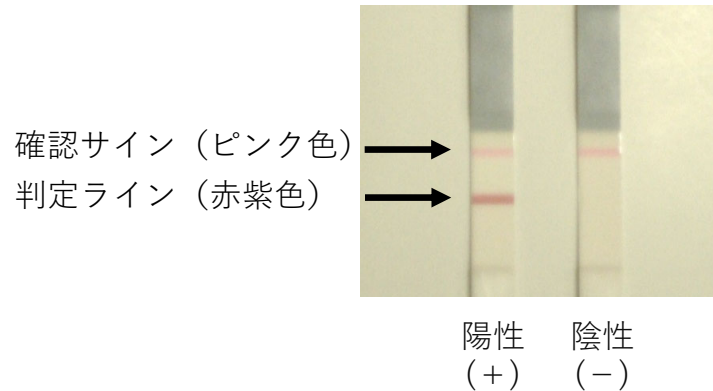
20分後に判定を行います。



テストストリップを差し込んだら、抜かずにそのままにして20分待ちます。

9. 判定する

20分後テストストリップを抜き取り、平面に置いて判定します。
(机などに置く場合、濡れないようにラップを敷くなどしてください)



陽性：食品サンプル中に2ppm以上のアレルゲンが含まれる

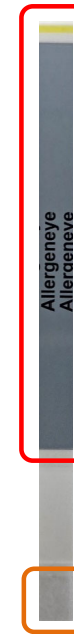
陰性：アレルゲンが含まれていない、または検出感度未満

時間の経過とともに判定ラインの濃さが変化するので、20分以降は判定を行わないでください。

【注意事項】

- ・ 明るい所で判定してください。
- ・ 常に同じ場所で判定してください。
- ・ 慣れない間は、2人以上で判定してください。
- ・ テストストリップを入れてから20分で判定し、それ以降は判定を行わないでください。
- ・ 確認サインが現れなかった場合は、再試験をしてください。

10. 結果の記録・保管



記入可能欄 検査日やサンプル名、判定結果などを記入します。

吸い取る テストストリップ先端をティッシュペーパーで押さえて検査試料を吸い取ることで、反応が止まります。

結果の保管が必要な場合は、テストストリップを用紙にテープで貼り付けて保管します。保管中に判定ラインの濃さが変わることがありますので、20分後の判定結果を記入するなどして記録してください。

お問い合わせ先

プリマハムグループ



株式会社つくば食品評価センター

検査試薬事業部

〒300-0841 茨城県土浦市中向原635

TEL : 029-841-8950

E-mail : Allergeneye@primaham.co.jp